曹洞春秋
SOH　TOH　SHUN　JYŪ

總和会三綱領

1、宗門の興隆を図り、宗政の運営に関し、公正妥当なる施策の実現を期すること。
2、本宗の伝統性格を尊重し、大本山の尊厳維持に努めること。
3、会員相互の協調連絡を図り、その親和結束を固くすること。

発行所　總和会本部　　〒 105-0002 東京都港区愛宕 2-3-4 大本山總持寺出張所内 TEL 03(3431)5017

第24回總和会全国大会大円成
大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師報恩諷経修行

式 辞

總和会会長　鬼生田 俊英

本日、茲に、大本山總持寺紫雲台、曹洞宗管長江川辰三大禅師猊下、副貫首石附周行最高顧問老師、監院乙川暎元常任顧問老師、参議梅田恭隆常任顧問老師、藏山光堂顧問老師を始め、各顧問老師のご臨席を頂き、總和会理事、評議員各老師並びに全国各支部から大勢の会員諸老師が御出席のもと、第24回總和会全国大会の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

本年はご承知のとおり二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌ご正当の記念すべき年にも当たっており、ご本山におかれましては、大変お忙しい毎日であろうとご拝察申し上げます。

この多忙極める中、ご臨席賜りました大禅師猊下を始め、ご本山関係の諸老師に厚く御礼申し上げます。また、私たちは瑩峨二尊のお徳を偲び、改めて報恩感謝の念を新たにする次第であります。

また、奇しくも本年我が国は、戦後70年の節目の年を迎えました。戦前戦後の混乱の中、多くの犠牲と、言葉にならない程の辛苦から、今日の社会を築き上げた先人たちの努力と精進に感謝と敬虔な祈りを捧げたいと思います。

しかしながら、今日の社会情勢をみると、核家族化に伴い、古来の伝統を失った人々は、信仰を失い、道徳心を喪失し、親が子を子が親を殺す、夫婦の絆も希薄になり、結果肉親同士の果てしない争いが続く、或いは故なき人を殺める。誠に憂うべき世情と言わざるを得ません。

最近の図書、鵜飼秀徳氏の著書「寺院消滅」或いは経済誌等で寺院の危機が多く叫ばれております。

我ら總和会は、激変する時代の中、間近に迫る少子化、地方の人口減少等による今後の寺院護持経営の困難さを一層深刻に受け止め、次世代へ希望に満ちた宗門寺院としてバトンを繋げるよう、弛まぬ努力と精進を重ね、更に、瑩峨二尊のみ教えを高く掲げ、み仏の教えの尊さを敷衍し、よりよい社会創造のため邁進しなければならないと決意をする次第です。

最後に、ご本山の益々のご隆盛と、諸老師のご健勝、ご隆盛を祈念しご挨拶といたします。

總和同志此相來
向上機縁甘露開
両祖慈恩虔頂禮
傳光不昧盡昭回
無限秋風包萬法
千林果熟玉成堆

鶴一聲

公共交通機関で移動するとき、特に電車、新幹線等に乗ると周りの方々の半数以上が乗った途端にカバンやポケットから携帯、スマートホンを取り出しそこに集中している姿を見ると、たまに文庫本を読んでいる人がいると逆に新鮮に感じてしまいます。メールやゲームも含め物事の情報がどこにいてもリアルタイムに取得出来るようになったからでしょう。

總和会本部においても漸く、ホームページを開設する事が出来ました。今後可能な限り有意なる運用が出来ればと思います。とは言え今後も、「曹洞春秋」の発刊は継続していく予定でありますがいずれは時代の流れでホームページ内での閲覧だけになるかもしれません。

世界的に新聞業界はここ数年来発行部数が減少し新聞会社の将来が危ぶまれるようになりました。インターネットの普及が紙媒体の凋落の要因と言われていますが、他の紙媒体に目を向けますと、一時期言われた「活字・文書離れ」に関して出版業界などでは、読みやすい字の使用、行数や字数の抑制、といった工夫をして、逆にネットを使い通信販売、電子書籍と併合して販売数の増加を図るなどの買い手側のニーズにいかに応えるかを考え、古書籍などの絶版書籍も一度電子化し復刊を推進するなど対応を進め、凋落に歯止めをかけているようです。ある意味、インターネットそのものが巨大な活字媒体であると考えるとそれをいかに有効に活用していくかを模索していく方がこれからの時代においての「活字・文書離れ」対策になるのかもしれません。

宗門においてもネット化が進んできていますが、ネットメディアは「諸刃の剣」便利で気軽に利用できる反面、運用の仕方を誤れば自らが大きな痛手を負う可能性もあります。運用するのも情報を提供するのも受け取るのも機械ではなく人間ですからね。

ご 垂 示

曹洞宗管長・大本山總持寺貫首　江川 辰三

会員諸老師におかれましては、平素宗門の興隆大本山總持寺の護持発展のために一方ならぬお力添えをいただき、ここに厚く御礼を申し上げます。

「御両尊大遠忌法会」の最初の大遠忌「二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌」御正当の年を、本年私たちはお迎えいたしております。

皆さまからの尊いご浄財のご協力により、地上回廊の新築、祥雲閣、天真閣の耐震改修も無事に完了し、明日（９月30日）全て併せて落慶法要が営まれます。

諸準備が整う中、いよいよ来月７日からは大遠忌本法要の行持期間に入ります。２週間にわたり合計80人を超える焼香師の方々が上山され、峨山禅師さまの大慈恩に報いるべく、報恩謝徳のまことが捧げられます。18日には「鶴見のまちの大遠忌」の儀礼、そして20日に御正当法要が修行されます。

すでに本年６月上旬には８日間の大遠忌準法要がお勤めされ、51名の焼香師の方々が、報恩の心香を焚かれました。印象的であったのはどの方のお顔も、活き活きと輝いて見えたことであります。焼香師をお勤めすることの悦びが身体全体から溢れ出ていました。

先般自室において、昭和49年発行の瑩山禅師650回大遠忌記念冊子『鶴見ヶ丘』をたまたま眺めていましたら、或るページに自らの名まえが記されていることに気づき、そこに目が止まりました。

それは、今から50年前の昭和40年の峨山禅師600回大遠忌に関する記事でありました。同時に、当時のさまざまな思い出が鮮やかに脳裡に蘇りました。

二祖600回大遠忌では、４月１日から２週間の本法要勤修円成後ひき続き１週間の報恩大授戒会が営まれました。その授戒会の教授師は、弊師・眞法太禅和尚でした。

物故者追悼諷経
掌裡爛柴拈現前
至心追悼仲秋筵
愛山護法功無盡
満地爽風月影鮮
總和勝會清光注
獨露全機今古圓

老衲、その授戒会中若年ながら、落慶式直後の広く新しい大祖堂において初めて本山焼香師のお勤めを修行し、その記録が前掲書に残されていたわけです。

いろいろな歴史がありつつ仏祖正伝のみ教えそして大遠忌行持に関しても今日まで綿密に相承され修行されてきました。今度は私たちが古えから伝わる「大いなる足音」を次代にしっかりと伝えていかなければなりません。

ここに今後とも会員の皆さまから格別のご加担を賜りますよう、切にお願い申し上げるとともに長期にわたる「御両尊大遠忌法会」の無事円成に向けてより一層の和合を冀う次第であります。

祝 辞

總和会最高顧問・大本山總持寺副貫首　石附 周行

新秋の好時節、本年も曹洞宗檀信徒会館に於て總和会全国大会が開催され、全国各支部代表の諸老師方の出席をいただき、開会の辞では紫雲臺猊下御親修によって「仏祖諷経・峨山禅師報恩諷経・会員物故者追悼諷経」が修行されますことは、誠に有難き光栄であります。

禅師の禅風についてはあまり伝えられてこなかったように思いますが、紹碩自賛と読みとれる頂相に「幻人の心識　處々に最も親しし　古えより霊妙にして　吾に非ず人に非ず」とのお示しがあります。

ここから、いささか禅師の禅風を窺い知ることは、俗世の名利を捨てて、ひたすらに仏道を修行する私の心と認識は、場所場所に応じて最もぴったりしていて真実に添うている。この作用は自分がそうさせるのではなく、仏性という本来の面目がそうさせるのである―と示されているように受け止められます。

禅師はこの心の作用を釈尊より伝えられた、すべてを

正しく照す光とされ、時と所が変ろうとも真理として法燈を継承されて、釈尊と我々が一直線につながっていること、これこそが禅の正しい教えであると示されています。太陽の光が平等に世界のあらゆるものを照すように、禅師の禅風は輝き続けるのであります。

本会が一層輝き発展されますよう祈念申し上げ、無事を綴って祝辞に代えさせていただきます。

祝 辞

總和会常任顧問・大本山總持寺監院　乙川 暎元

菊花香る好時節となりました。

本日ここに第24回總和会全国大会が開催されますに際し、心よりお慶びを申し上げます。また總和会会員諸老師に於かれましては、平素より宗門の興隆・本山の護持発展、御両尊大遠忌法会のために多大なお力添えを賜りますこと、厚く御礼を申し上げます。

いよいよ宗門挙げての「二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌」正当法要が目前に迫り、10月７日から20日までの２週間にわたって盛大かつ厳粛に奉修されます。

全国曹洞宗寺院並びに總和会、嶽山会の皆様方には多大なるお力添えを大遠忌事業完遂の為にお寄せ頂き、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、本山では「リニューアル化粧直し工事」が完了し、大遠忌幕開けの事業に「紫雲臺猊下御親修全国徒弟研修会with国際子ども禅のつどい～未来に向けての大いなる足音」が全国曹洞宗青年会40周年記念事業として開催されました。 そして４月より大遠忌が啓建となり、紫雲臺猊下御親修大遠忌報恩授戒会が、多勢の戒弟の御参加を得てつとまり、５月27日・28日の曹洞宗梅花流全国奉詠大会では峨山禅師様の奉讃奉詠が営まれ、報恩感謝のまことが捧げられました。また、６月13日には「峨山禅師シンポジウム」が行われました。18日には裏千家の家元による「献茶式」並びに「大茶会」が行われ、23日には池辺晋一郎氏による仏教音楽コンサート「祈りの調べ」〝峨山道〟～真読とオーケストラの為に～が、みなとみらいホールで行われました。営繕事業といたしまして、地上回廊の新築工事・天真閣及び祥雲閣の耐震改修工事が無事に竣工しました。加えて10月18日には「鶴見のまちの大遠忌」が予定されております。また、峨山禅師のゆかりの地では『大本山總持寺二祖峨山禅師讃仰御詠歌』の石碑が境内に建立されました。

最後になりましたが、本大会の成功と会員諸老師の御健勝を祈念し、祝辞といたします。

祝 辞

總和会常任顧問・曹洞宗参議　梅田 恭隆

既に、御本山では、正当大遠忌法要が全国各地よりの焼香師の皆様により厳修されております。広い大祖堂の朝の静寂を揺るがす大木魚の鈍い響き、峨山越えの往事を偲び、継けられる大悲真読は650年の時を越え、まるで禅師の足音のようにも聴えます。

本宗は道元禅師以来、只管打坐を宗として、瑩山禅師の平常心の工夫を専にし、峨山禅師をはじめ各祖師へ連綿と法の継承がなされて今の宗門が有ります。峨山禅師は二十五哲と言われる多くの子弟を育成され、總持寺はもとより日本曹洞宗の礎を築かれました。禅師の開悟の機縁とされる公案「両箇の月」は洞門師資相承の言葉としても相応しいように思います。又、禅師が弟子に与えたとされる「入鄽販魚（にってんはんぎょ）」の公案、「我れ若し、市鄽（町中）に在って魚肉を販せば、誰か是れ後に隨って、以って其の銭を貫ぬかん（集金する）、」一衆が答えに窮する中、太源宗真禅師は「宗真在る有り、」と答えられます。（『日本洞上聯燈録』）

魚肉を売るとは甚だ大胆な問ですが、禅門の公案は常

に学人を叱咤覚醒する箴言であり、答える人も命がけで応じなければなりません。

650年を経た今日、日本は世界一の長寿国にもなりましたが、如何に快適な世の中になろうとも、生老病死の問題は、定めなき世の定めとして変ることはありません。この根源的な苦しみの救済にこそ僧侶の使命もあろうかと思います。本会諸老師には一味同心の法孫として、改めて祖師の行履に学び、共に研鑽を深めて行きたいと思っています。

第 24 回　總和会全国大会概要

平成27年９月29日（火）第24回總和会全国大会が参加者120有余名を得て開催された。

午後１時より曹洞宗檀信徒会館３階桜の間に於いて山本健善總和会副理事長司会、須田孝英總和会副会長の開会の辞発声により大会式典が開催され、江川辰三紫雲臺猊下御親修のもと仏祖諷経・大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師報恩諷経・会員物故者追悼諷経が厳修され続いて御垂示を賜った。

鬼生田会長

鬼生田俊英總和会会長の式辞の後、總和会最高顧問石附周行大本山總持寺副貫首、總和会常任顧問乙川暎元大本山總持寺監院、總和会常任顧問梅田恭隆曹洞宗参議よりそれぞれ祝辞をいただいた。

式典終了後、第１部大会会議が始まった。宗歌斉唱の後議長に福島支部西川良英支部長、副議長に山梨支部江川弘二支部長がそれぞれ選出され議事に入り、大本山總持寺石田征史副監院より山務報告、成田隆真理事長より会務報告が行われた。続いて各ブロック代表による意見発表及び活発な質疑応答が行われた。引き続き第２部のでは、駒澤大学野球部元監督太田誠先生による『球道に学ぶ智力、縁力』と題して記念講演が行われ、高階玉光總和会副会長による閉会の辞にて会議日程を終了した。

第３部の懇親会は３階蘭、菊の間に於いて盛大に開催され、午後７時無事全日程を終了し散会となった。

議長・副議長

宗歌斉唱

石田副監院

成田理事長

全国大会意見発表要旨

１、関東ブロック代表

山梨県第 30 番

常安寺住職　野沢 顕和

東京グランドホテル並びに事業本部の発展的将来像についてお伺いします。事業部長に鬼生田老師が就任して以来、黒字経営が続き、一般会計への繰り入れもなされ、さらに近接不動産を取得するなど、宗門の利用拡大が期待されます。将来宗費の減少が予想されるなか、宗費以外の財源確保も踏まえた将来像ついてお答え下さい。

〈答弁：鬼生田会長〉

平成11年10月１日に事業部長に就任した当時は大変財政困難な状態であり、これを何とか再建したいと強く感じ、以来16年間、皆様のお蔭をもって赤字を出さずにやってまいりました、東京グランドホテルという名称を残しつつも、当時人件費が70％もあり、その為の人員整理や、資産の減価償却などをもって運営してきたわけであります。現在、隣接ビルの取得も積極的に行える財政状況となりつあります。

また、この地域が再開発の対象となる時期もあろうかと思いますが、リニアモーターカーの計画など、立地に恵まれておりますので、将来的展望をはかっていきたいと思っております。

２、東海ブロック代表

岐阜県第 120 番

清安寺住職　大久保 厚志

前回の全国大会時にもありましたが、現在多くの提言が本部に寄せられているようであります。原発問題への宗門の見解、梅花流詠讃歌の展開、過疎化と級階査定、宗門財政と制度改革、住職・寺族・家族の位置づけ、葬儀の変容に対する対応、未資格者の緋衣被着、自然災害時のネットワークの構築など、どれも重要なものばかりでありますが、

❶現在總和会本部として取り組んでいる課題、そしてその状況をお知らせ下さい。

〈答弁：須田副会長〉

全国大会はじめ、各ブロック大会、支部総会など、多くのご提言が寄せられております。その一つとして、昨年の大会で長野県の伊東泰顕老師からご提案がありました。現在の葬儀に関するものでありましたが、各方面への働きかけが実現いたしまして、本日資料にも加えさせていただきましたが、間もなく宗報にも同封されます「お役立ちマニュアル もしものときは菩提寺へ」という冊子が完成いたしました。一部80円で頒布されます。檀信徒へのアプローチとしてご活用いただきたいと存じます。伊東老師には貴重なご提案をいただき改めて感謝申し上げます。

次に先ほどのホームページの開設も、ご意見が現実化したののでありが、今後ますますインターネットの活用をより有意義なものにしてまいりたいと存じます。

また、ご承知のように４部会を設けそれぞれ諮問事項について検討をして頂いておりますが、政調部会においては各種審議会や委員会などの開催について、そのあり方を検討され、すでに３回ほど開催されております。組織部会では、全国大会の開催について時間的制約など、その内容の一層の充実を検討していただいております。また社会部会では、地域の違いはあれど多様化する葬儀のあり方について検討をして頂いておりますが、葬儀のその根底について検討がなされているようであります。また広報部会については、「曹洞春秋」の発行はもとよりホームページの活用を目指しております。

これに加え、会長よりは宗制の抜本的見直しを示唆されており、今後重要な課題になろうかと存じます。多くの課題があり、すぐに結論がでないこともあろうかと思いますが、会員諸老師の叡智をもって対応してまいりたいと思っております。

❷總和会より４名の部長が内局に就任しておられますが、各部が抱えている大きな課題をお示し頂きたいと思います。

〈答弁：田中教学部長〉

僧堂振興について、専門部会で検討をしておりますが、対応する施策として即効性のあるものと将来のそれと、二つに分けて検討をしております。即効のものとしては、新到僧への補助金制度の新たなあり方を検討しております。あいさつや礼儀、法衣や応量器の扱い、坐禅や正座など上山する前に身に着けておかなくてはならない基本的素養が十分でないことなどを検討しております。次に暴力は絶対に許されるものではありません。古参僧は指導者ではありません。そうした行為が起こらないような制度構築を検討中であります。同じく検討中ではありま

すが、暴力行為への処罰を宗制に明記することも模索しております。

〈答弁：橋本財政部長〉

次期級階査定につきまして、本年がその実施年度でありましたが、最新の国勢調査の情報は平成22年10月1日のものであり、あの東日本大震災の影響が反映されないことになってしまいます。よってこれを先延ばししており、本年実施の国勢調査の情報を待って平成30年度の調査実施を目途としております。また、専門部会を設け、檀信徒数による査定方法の可能性や過疎地域の査定による控除を検討しております。公平公正な査定実施を目指しております。

〈答弁：中村教化部長〉

就任以来、曹洞宗というブランドを社会に発信していくことを目指しております。そのひとつがフォトコンテストの実施であり、お陰様で予想以上の1227点の応募を頂き、来月初旬の宗報で発表されますが、メルパルクホールでの禅をきく会などで順次皆様に御覧頂きたいと思っております。

第２点として、来る１月「世界に広がる曹洞宗　北米参禅ツアー　禅からZENへ　その源流を訪ねるカリフォルニアの旅」というツアーを企画いたしました。これは今という時代を社会に発信していくことが重要であると強く思料してのことであります。様々なメディアをもって発信していくことになろうと存じます。

〈答弁：塩竈出版部長〉

明日の出版審議会の答申を待っているわけでありますが、「禅の友」の発行についてその部数が減少しているわけであります。平成18年には年間約300万部の発行がここ数年は240から250万部となっているわけであります。寺院の皆様に継続的購読や施本としてのご利用を是非お願いしたいと存じます。

３、中四国ブロック代表
岡山県第 180 番
千光寺住職　**早川　石峯**

５月の政調部会、または中四国ブロック大会でも重ねて申し上げておりますが、西日本の寺院にたいして、厚生年金制度への勧誘が恐喝的に行われている現状であります。これに対して曹洞宗としてどう対応されるのかお伺いしたい。

〈答弁：橋本財政部長〉

日本年金機構中国ブロックの担当者が厚生年金への加入促進を図っておりますが、去る２月２日中国四国九州ブロックの担当者が来庁し、寺院といえども年金加入の義務者であるとの見解でその促進を進めるよう要請がありました。しかし実際には保険費用の恒常的捻出の課題や退職という概念が寺院住職にはなじまないなどの問題があると存じます。これを全日本仏教会に持ち込み、多宗派とも同様の状況であることから、日本年金機構はじめ文化庁宗務課、厚労省年金局と意見交換を重ね、７月６日には、厚労省年金局より全国各ブロック本部を通じ、管内の年金事務局に対して宗教法人への加入促進のストップの指示が出されております。現在はまだ継続審議がなされておりますので、今後も交渉が続くと思われますが、強制的加入促進があった場合は、宗務庁へご一報頂きたいと存じます。

４、北海道ブロック代表
北海道第 307 番
龍華寺住職　**松本　弘哉**

現在總和会には、長野第１支部、青森支部、北海道支部にそれぞれ青年会が組織されておりますが、北海道支部は設立24年目で会員は約70名、ボランティア活動、研修旅行、会報の発行などをしておりますが、長野第１支部の青年会さんとは平成18年より交流会も設けております。青年僧育成の為にも是非各支部に青年会を設置していただきたいと要望いたします。

〈答弁：高階副会長〉

各支部に青年会の設置を、とのご提言であとうと存じますが、本会の会則には青年会という条項はありません。しかしながら、若い世代の僧侶の組織離れなども聞こえてまいります。支部の底辺を広げることは支部組織全体を拡充につながるものであります。貴重なご意見として受けとめさせて頂き、検討課題とさせて頂きます。

記念講演
「球道に学ぶ智力、縁力」
駒澤大学野球部元監督　太田　誠先生

駒澤大学野球部元監督の太田誠氏が、監督時代と変わらぬ情熱溢れる語りで「球道に学ぶ智力、縁力」と題して記念講演をいただいた。

太田氏は駒大野球部から電電東京（現NTT東京）で８年間の選手生活を送り、昭和41年に現役を引退。その後は世田谷電話局の営業部門に勤めていた。しかし昭和45年秋に突如、藤田俊訓学監に請われて一部入れ替え戦の代理監督となり、残留を決定。重責を果たしてサラリーマン生活に戻るはずだった太田氏に「日本中に駒澤の名前を知らしめ、歴史と伝統をつくりあげてほしい」と藤田学監から要請され、以降35年にわたり監督を務め、駒大野球部の黄金時代を築き上げた。

太田氏は時折、元麻布にある藤田学監の自坊（賢宗寺）へと相談に伺いアドバイスを請うと、「これからの世の中で一番大事なのは、人材ではない。人物だよ。人物をつくらなきゃならん」とおっしゃった。人物をつくれば人は活きると。そこで私は「人物はどのようにしてつくればいいのですか」と聞きたかったが、聞き返せない。自分で考えなさいとという言葉を含んでバッサリと言い切られる。早朝の30分程の時間だが、毎回引き込まれるその場の雰囲気は有意義で、藤田学監からは学ぶことが多かった。言葉の持つ大事さを教わった。その後の私の人生の節目に、不思議と縁をいただいた方々に助けられ、励まされ、有意義な人生を送ることが出来た。と結ばれた。

また、太田氏の講演には、阿部靖彦東北福祉大学ゴルフ部監督が聴講する姿も見られ、最後には太田氏の紹介でサプライズゲストとして壇上へ。（写真）

創部以来25年間で、池田勇太選手、松山英樹選手を始め百数十名のプロゴルファーを育成した阿部監督は「大学では人をつくり、その人物を如何に社会に送り出すかを考えて指導している」と話し、太田氏も「短期間でこれほどのゴルフ部を作り上げた業績はすごい。彼も何かを持っており、藤田学監同様、話をしていても言葉の重みが違う」と讃えた。

［講師紹介］
昭和11（1936）年　静岡県浜松市生まれ
昭和46年　駒澤大学野球部監督。35年間監督を努める
戦　歴：東都大学リーグ　優勝22回
　　日本選手権大会　優勝５回
　　明治神宮大会　優勝４回
前　歴：全日本監督　６回
　　シドニーオリンピック強化本部長
　　学生大学協会常務理事
　　大学野球連盟常務理事
　　アマチュア野球連盟常務理事
現　在：浜松市観光大使
　　駒澤大学静岡県同窓会会長
　　駒澤大学野球部ＯＢ会長

總和会会務報告

期日	会務内容	
６月20日	執行部会	（總和会本部）
６月21日	顧問・執行部会	（檀信徒会館）
６月21日	常任理事会	（檀信徒会館）
６月21日	理事・評議員会	（檀信徒会館）
６月21日	議員総会	（檀信徒会館）
６月21日	執行部会	（檀信徒会館）
６月25日	議員総会	（檀信徒会館）
6月30～7月1日	九州ブロック大会・福岡	（博多全日空ホテル）
6月30～7月1日	中四国ブロック大会・愛媛	（東京第一ホテル松山）
７月７～８日	近畿ブロック大会・大阪	（リーガロイヤルホテル大阪）
７月８日	広報部会	（總和会本部）
７月21日	選挙制度改革プロジェクト	（檀信徒会館）
８月24日	執行部会	（總和会本部）
８月24日	広報部会	（總和会本部）
８月24日	宗務研修会	（檀信徒会館）
９月28日	執行部会	（檀信徒会館）
９月29日	顧問・執行部会	（檀信徒会館）
９月29日	總和会全国大会	（檀信徒会館）
９月30日	理事会	（檀信徒会館）
９月30日	執行部会	（檀信徒会館）
10月19日	選挙制度改革プロジェクト	（檀信徒会館）
10月30～31日	東北ブロック大会・岩手	（メトロポリタン盛岡）

峨山禅師伝考【その七】

愛知学院大学学長　佐藤悦成

両箇の月　その二

峨山禅師は「両個の月」の教誡を受けて以降、自らの未熟を愧じて一層の精進を続けられたのですが、瑩山禅師の意図については明らかにし得ないままでした。師の会下に参じて既に三年の月日が過ぎようとしていた正安三年（一三〇一）十二月二十三日、峨山禅師はいつものように夜坐を行じておられました。時の経つのも忘れて打坐する峨山禅師の姿を見て、その心境が一段と深まったことを看取された瑩山禅師は、静かに傍に寄り、その耳元で弾指を一下されました。寒さが深く身に滲みる夜半の静寂の中、瑩山禅師の弾指は大音響となって峨山禅師の心に届きました。それはまさしく弾指を耳で聞いたのではなく、心に響き渡ってすべての障礙が脱落したのです。

峨山禅師が行じている坐禅を、禅を修行する者としての義務でもなく、仏になるための作意でもないと認めたからこそ、瑩山禅師は弾指されたのです。師資の機宜ここに至り、峨山禅師は大事を了畢されました。峨山禅師の悟入を首肯した瑩山禅師は、直ぐに垂語（釣語）してその境界を試されました。『峨山和尚行状』は次のように記します。

【（瑩山禅師が）詰問していわれた。石女の蛇を胎む意旨作麼生。】

この問いに対して峨山禅師は、

【昔年、石の蛇を胎むを憶得せるも、今日、まさに蛇の石を胎むを看る。】

と答えられました。その意味は、「凡夫の内に仏心が宿るとは、どのようなことかね」という問いに、「仏法を知識として理解していた頃は、誰の内にも仏心があり、修行によって顕現すると信じていました。しかし今は、この世界こそが仏の世界であり、わたしは生まれながらに仏であったことを了得しました」と答えられたのです。

積年の課題であった「両箇の月」が氷解した瞬間でした。では、「両個の月」とはどのような教えだったのでしょう。「両」とは一対で完結することばです。仏教では様々に表現されていますから、以下に例を挙げてみましょう。

例：「両箇の月」

釈尊	菩提樹下の正覚（有余涅槃）	樹下を起ち、転法輪（慈悲行）に向かう
『景徳伝燈録』長沙景岑章	百尺竿頭上（悟道）	進一歩（慈悲行に踏み出す）
『趙州録』	正覚	仏向上（仏向上事）
『十牛図』	返本還源（入空法亦空）	入鄽垂手（灰頭土面）
『般若心経』	色即是空（真実の姿）	空即是色（現実の姿）
曇鸞『浄土論註』	往相（此岸から彼岸へ往く）	還相（彼岸から此岸へ戻る）
真言密教	遮情（分別心の遮断）	表徳（仏性の表出）
月	新月→満月（円相）	満月→新月（悟後の修）
瑩山禅師の釣語に対する峨山禅師のことば	昔年、石の蛇を胎むを憶得	今日、まさに蛇の石を胎むを看る
瑩山禅師の得悟のことば	黒漆の崑崙夜裏に走る	飯に遇うては飯を喫し、茶に遇うては茶を喫す

道元禅師は悟道の例として、『正法眼蔵随聞記』にも、香厳智閑禅師の「香厳撃竹」、霊雲志勤禅師の「霊雲桃花」を記されますが、まさしく積年の弁道功夫があって到る境地といえます。師資の機宜ここに至り、峨山禅師は大事を了畢されました。ですから、「相承」には只管打坐の要諦が如実に示されているのです。

總和会ホームページ開設

http://souwakai.info

【訃報】

去る平成 27 年 9 月 9 日､大本山總持寺前西堂、駒澤大学元総長、神奈川県小田原市香林寺住職松田文雄師が遷化なされました。老師は東北大学大学院でインド学を学ばれ、後に駒澤大学で増永霊鳳博士の下で中国禅宗史を修められました。特に瑩山禅師の研究の第一人者であり、本誌にも「瑩山禅師研究寸滴抄」として第 70 号より 25 回の長期間にわたり連載をいただきました。ここに慎んで衷心より哀悼の意を表します。世寿 86 歳。

［編集後記］

去る 10 月 20 日、大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師 650 回大遠忌御正当が大本山總持寺法堂に於いて、江川辰三紫雲臺猊下御親修のもと謹んで厳修されました。峨山禅師様は五哲あるいは二十五哲と呼ばれたお弟子様、さらにその門弟が曹洞宗の教えを全国に展開する基礎を形成され、現在の曹洞宗の礎を築かれました。

宗門は、これからもその伝統と歴史を継承し相承させていかなければなりません。

近頃、若年層のみならず高齢者による殺人事件など多くの犯罪が起きています。現代の宗教心の薄れもその一因にあるような気がします。我々は日本が犯罪大国にならぬよう、この時代に合った布教活動、道徳心など祖師方の教えをこの社会に伝えていくことが使命ではなかろうかと思います。

峨山禅師様の遠忌を御縁にこれからの宗門のあり方を皆様と考えて行きたいものです。

広報部会

編集・山本健善　嶽盛和三　岩井秀弘　片山昌佳　服部直哉